

○計画期間：令和2年7月～令和8年3月（5年9月）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和5年度終了時点（令和6年3月31日時点）の中心市街地の概況

令和2年7月からスタートした第3期基本計画は、基本理念を『飯田美しき町』魅力的な丘のまちの形成」とし、「美しい丘のまちのデザインづくり」「丘のまちの居場所・交流空間づくり」「丘のまちの快適な暮らし創造」「丘のまちの新たな価値創造」の4つの目標を掲げ事業を展開している。

新型コロナウイルス感染症（以下：コロナ）の影響により、公共施設は令和4年度まで休館や利用制限を伴う運営を行っていたが、令和5年度から通常運営となり公民館施設を中心に公共施設利用者数が回復してきている。特に令和4年5月に駅前的大型施設を改修・整備した「ムトスぷらざ」はコロナ前の基準値を大幅に上回る利用につながっている。計画策定時の課題「幅広い世代が集いやすい交流拠点づくり」にもつながり、中心市街地の賑わい創出に大きく寄与している。

また、通行量調査も前年度対比では全体的に増加しており、公共交通の結節点である飯田駅前には前年度対比約44%の増加が見られた。また、中心市街地に4ヶ所設置されている市営駐車場も前年度から約2万5千件/年の増加となり、外からの人の流れは回復傾向にある。一方で、コロナ前の基準値対比は約26%の減少となっていることから、施設目的で訪れている利用者を、街中へ誘導する取組が今後有効と考えられる。

中心市街地のシンボル「りんご並木」を軸に官民が連携して開催している歩行者天国事業や各種事業では年間約6万人の集客があり賑わい創出に寄与している。今年度より新たに、りんご並木の今後を検討する市民会議を発足し関係者間でりんご並木の目指す姿を共有した。目指す姿の実現に向け具体案を整理し社会実験として令和6年度実施を予定している。

計画全体では、目標を達成する事業も増え昨年度と比較し多くの事業で好転がみられてきているため、引き続き各事業の取り組みを推進していく。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

（基準日：毎年度1月1日）

（中心市街地 区域）	平成30年度 （計画前年度）	令和2年度 （1年目）	令和3年度 （2年目）	令和4年度 （3年目）	令和5年度 （4年目）	令和6年度 （5年目）	令和7年度 （6年目）
人口	8,660	8,365	8,217	8,062	7,950		
人口増減数		-295	-148	-155	-112		
自然増減数		-220	-106	-134	-123		
社会増減数		-69	-40	-21	11		
転入者数		480	262	243	264		
地価	67,900	64,300	62,400	60,800	59,600		

## 2. 令和5年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

- ・コロナ禍による経済への影響は大きく、商業機能等が集積する中心市街地は特に大きな影響を受けてきたが、5類感染症へ移行したことにより人の移動・接触はコロナ前の水準となり、感染症による直接的な経済活動への影響はほぼ解消しつつある。
- ・中心市街地の各施設利用者数は、公共施設を中心にコロナ前の水準を上回る施設が多く確認されている。令和5年度の取組は回復傾向にある状況を踏まえ、歩行者天国事業等の各種イベントも以前同様に開催でき賑わいが創出されている。今年度から、まちづくりのシンボルであるりんご並木を更に活用して憩いや賑わいが創出される空間づくりの検討が進められていることから、令和6年度実施予定の社会実験事業による影響及び効果を検証していきたい。
- ・コロナ禍からの回復が見られる中、リニア中央新幹線の開業が2034年以降になるとの見通しが出されたが、今後の中心市街地を考えていくうえで早期開業と開業時期の公表を強くお願いしたい。また、当市郊外に設置されるリニア駅周辺は広域交通拠点の整備とし、中心市街地は当市の中心拠点とすることを確認している。開業に向けて飯田市及び南信州圏域のポテンシャルを高めるため、中心市街地の魅力形成に向けた取組を推進していく。
- ・リニア中央新幹線と共に、文化活動を推進するための施設整備や大学誘致、デジタル産業をはじめとする新しい産業基盤としてのオフィス街、新たな働き方に対応した居住や社会インフラ等の再構築を再開発事業含め研究していく。
- ・リニア駅からの二次交通手段としてモビリティの拡充や公共交通の在り方など、中心市街地の交通結節機能のさらなる強化に向けて検討いただきたい。
- ・リニア時代を見据えまちを更新し、魅力ある中心市街地とするためにも中心市街地活性化基本計画は重要な計画に位置付いている。中心市街地活性化協会では、リニア時代の顔ともいえる中心市街地のあり方について積極的に検討を進めていく。

## II. 目標ごとのフォローアップ結果

### 1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
美しい丘のまちのデザインづくり	歩行者・自転車通行量(休日)	9,475人/日(H30)	10,400人/日(R7)	6,966人/日	C	1	②
丘のまちの居場所・交流空間づくり	都市福祉施設利用者数(年間)	209,214人/年(H30)	214,800人/年(R7)	299,980人/年	A	1	①
丘のまちの快適な暮らし創造	新規出店数(年間)	3店舗/年(H20~H30の平均)	5店舗/年(R2.7~R8.3の平均)	10店舗/年	A	①	①
丘のまちの新たな価値創造	文化・交流施設利用者数(年間)	284,094人/年(H30)	299,600人/年(R7)	309,941人/年	A	①	①

<基準値からの改善状況>

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

<目標達成に関する見通しの分類>

①目標達成が見込まれる ②目標達成が見込まれない

※関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ1、2とする。

## 2. 目標達成見通しの理由

「歩行者・自転車通行量」は、前年度と比較し調査地点6カ所の内5カ所が増加し、前年度対比で約26%増加した。特に公共交通の結節点である駅前・中央通りでは前年度対比約44%増加し、基準値のコロナ前と概ね同じ数値まで回復してきている。これはコロナが令和5年5月に5類感染症へ移行し人の流れが回復してきたことが大きな要因と考えられる。一方で、全体の通行量は基準値対比では約26%の減少となっていることから、まちなか回遊を促進する事業や仕組みを構築する等の施策を展開し目標の達成を目指す。

「都市福利施設利用者数」は、前年度対比では約100%の増加となっている。これは、コロナ禍の影響により公共施設は前年度、休館及び利用制限の期間を設けていたため大きな増加の要因になったと考えられる。また、基準値対比で約43%増加し目標値を約40%上回っている。増加が顕著な施設は令和4年5月に駅前の大型施設を改修し整備されたムトスぷらざで、前年度対比で約273%増加し、調査施設として最も利用者の多い飯田市立動物園を上回る利用者につながっている。これは、整備前から需要の高かった「幅広い世代が集いやすい交流拠点の整備」として、大規模なフリースペースを設置したことが大きな要因と考えられる。他にも各公民館施設や子育て支援施設など既に目標値を上回る利用者となっていることから、目標達成は可能と見込まれる。

「新規出店数」は、基準値対比で7店舗増加し目標値を5店舗上回っている。これは、コロナが収束し今後の経営に踏み出す動きが増えてきたことに加えて、今年度より新たに拡充した施策も要因の一つと考えられる。これまでは、空き店舗を活用して新規出店する際の建物改修費を補助していたが、新たに賃借料補助を拡充したことで、窓口での相談件数や制度利用者の増加につながっている。今後も、物価高や光熱水費等の経常経費の増加等による新規出店へのマイナス材料が見込まれるが、引き続き支援することで目標達成は可能と見込まれる。

「文化・交流施設利用者数」は、基準値対比で約9%増加し目標値を約3%上回っている。コロナ後、公共施設が通常運営を再開したことに加えて集客回復への取り組みがプラスの効果につながったものと考えられる。基準値対比で飯田市立動物園は14%増加、飯田市立中央図書館は28%増加とコロナ前を大きく上回る利用者となっている。一方で飯田市美術博物館は31%減少となっているが、施設改修のため下半期を休館していたことが要因と考えると、文化・交流施設利用者数はコロナから大きく回復しており目標達成は可能と見込まれる。

## 3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

「歩行者・自転車通行量」

目標達成見通しについては、令和4年度フォローアップにおいてコロナ禍の影響によ

り各施設が通常運営できなかつたため中心市街地への来訪者も回復に至らず歩行者・自転車通行量も想定より低い数値となっていたことから（１）と評価した。

その後、令和５年５月にコロナが５類感染症へ移行したことにより、施設は通常運営に戻り都市福利施設及び文化・交流施設は基準値及び目標値を上回る利用者数に回復してきているが、歩行者・自転車通行量は基準値対比でも約２６％の減少となっていることから目標達成が見込まれない（２）と評価した。

「都市福利施設利用者数」

目標達成見通しについては、令和４年度フォローアップにおいてコロナ禍の影響により各施設が通常運営できず、想定より低い数値となっていたことから（１）と評価した。

その後、令和５年５月にコロナが５類感染症へ移行したことにより、施設の通常運営再開に加えて、各取り組みにより目標を上回る数値に回復してきたことから（１）と評価した。

「新規出店数」

前回から変更はない。

「文化・交流施設利用者数」

前回から変更はない。

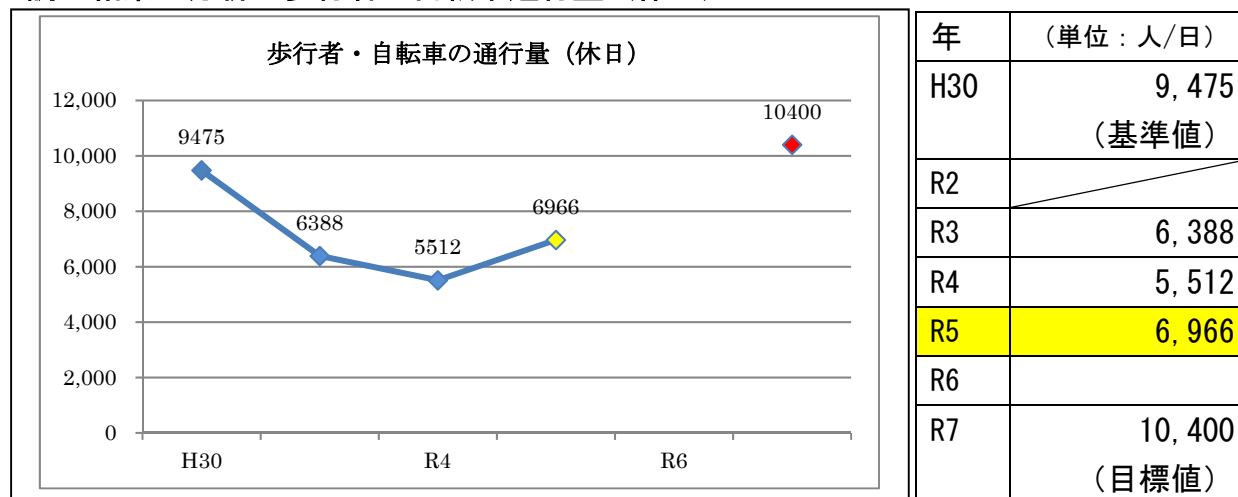
#### ４．目標指標ごとのフォローアップ結果

##### ◆美しい丘のまちのデザインづくり

目標指標：歩行者・自転車通行量（休日）

※目標設定の考え方認定基本計画 P.109～P.111 参照

##### ●調査結果と分析：歩行者・自転車通行量（休日）



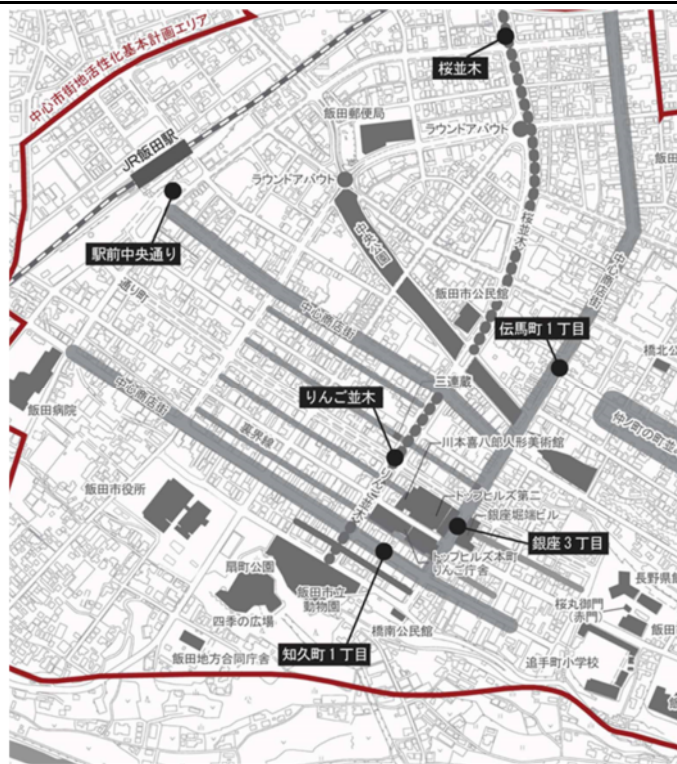
※調査方法：計画地点での調査員による通行量調査

※調査月：令和５年１０月

※調査主体：飯田市

※調査対象：歩行者及び自転車 土曜日６地点

(駅前・中央通り、りんご並木、知久町１丁目、銀座３丁目、伝馬町１丁目、桜並木)



(単位：人/日)

	平成 30 年度 (計画前年度)	令和 2 年度 (1 年目)	令和 3 年度 (2 年目)	令和 4 年度 (3 年目)	令和 5 年度 (4 年目)	令和 6 年度 (5 年目)	令和 7 年度 (6 年目)
駅前・中央通り	3,316		2,212	2,286	3,286		
りんご並木	1,774		1,246	686	900		
知久町 1 丁目	744		390	378	360		
銀座 3 丁目	2,734		1,534	1,310	1,352		
伝馬町 1 丁目	640		564	448	530		
桜並木	267		442	404	538		
合計	9,475		6,388	5,512	6,966		

### 〈分析内容〉

コロナ禍の影響を受ける前の基準値と比較し全体で約 26%減少しているが、前年度と比較し調査地点 6 カ所の内 5 カ所が増加し、前年度対比で約 26%増加した。特に公共交通の結節点である駅前・中央通りでは前年度対比約 44%増加し、基準値のコロナ前と概ね同じ数値まで回復してきている。時間帯別通行量を分析すると、前年度対比で伝馬町 1 丁目は 10 時～11 時に 236%、りんご並木は 12 時～13 時に約 61%、銀座 3 丁目では 17 時～18 時に 36%と、昼食や夕食時の時間帯が大幅に増加してきている。これはコロナが令和 5 年 5 月に 5 類感染症へ移行し人の流れが回復してきたことに加えて、飲食店等利用者の増加が大きな要因と考えられる。

### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

#### (1) 市街地の整備事業による効果

### ①桜並木整備事業

(飯田市、まちづくり委員会)

事業実施期間	平成22年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	市民や来街者がゆっくり歩いて鑑賞でき、四季を通じて楽しめる空間として桜並木を整備することで、滞留と回遊の創出を図る
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（飯田市中心市街地地区）） 令和3年度～令和7年度
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：歩行者通行量：391人/日 最新値：歩行者通行量：538人/日（目標達成） 調査地点：桜並木 進捗状況：事業予定箇所の一部を整備したことにより、景観含めてより歩きやすい環境が整い、目標値を上回る交通量があった。
事業の今後について	目標値を上回る交通量があった。事業予定箇所内のラウンドアバウトを、景観含めより歩きやすい環境となるよう整備した効果が数値につながってきているため、今後は周辺道路の整備・改修に加えて整備された道路の利活用に向けて取り組んでいく。

## (2) 商業施設整備による効果

### ①旧ピアゴ他駅周辺低・未利用地活用整備事業

(飯田市、飯田市中心市街地活性化協会、(株)飯田まちづくりカンパニー、飯田駅前プラザ(株))

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	リニア中央新幹線の開通を見据え、広域交通拠点と中心拠点及び鉄道・バス等の交通結節点となる、旧ピアゴ等を含む飯田駅周辺の低・未利用地について、教育文化施設や賑わい空間施設等の活用整備を官民連携で行うことにより、新たな魅力拠点の創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（飯田市中心市街地地区）） 令和3年度～令和7年度
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：歩行者通行量：3,569人/日 最新値：歩行者通行量：3,286人/日（目標未達成） 調査地点：駅前中央通り 進捗状況：目標値は8%下回ったが、前年度対比で約44%増加している。調査地点は交通結節点のため、電車だけでなく市内循環バスや高速バスの利用者も通過するため、人の流れは回復傾向にあると考えられる。
事業の今後について	令和4年5月に建物改修を終え「丘の上結いスクエア」として竣工した。施設内の「公民館機能」「賑わい交流機能」「商業施設」の機能を活かした取り組みを進め交流人口の拡大を図る。

## ②旧ピアゴ商業施設等整備事業

(吉川建設(株)、商店街ほか)

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	平成30年9月末に閉店した飯田駅前大型商業施設「旧ピアゴ」を、内外の観光客等のニーズに対応する複合商業施設へと商店街や民間事業者が一体となり整備することで、域外等から新たな需要を取り込み消費の喚起に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	商店街活性化・観光消費創出事業 令和2年7月～令和8年3月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：歩行者通行量：3,569人/日 最新値：歩行者通行量：3,286人/日（目標未達成） 調査地点：駅前中央通り 進捗状況：目標値は8%下回ったが、前年度対比で約44%増加している。調査地点は交通結節点のため、電車だけでなく市内循環バスや高速バスの利用者も通過するため、人の流れは回復傾向にあると考えられる。
事業の今後について	令和4年5月に建物改修を終え「丘の上結いスクエア」として竣工した。施設内の「公民館機能」「賑わい交流機能」「商業施設」の機能を活かした取り組みを進め交流人口の拡大を図る。

## (3) 都市福利施設利用者数増加による効果

### ①健康福祉拠点活用事業

((社医) 栗山会、カーブス(株)なみき)

事業実施期間	平成26年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	高齢化が進む中心市街地において、市民の健康寿命延伸のため、銀座堀端ビル等を拠点として、地域に居住する高齢者の生活支援施策、地域住民の健康支援事業、地域住民の健康・福祉データバンク機能、子育て支援のため整備した拠点を活用することで、まちなか居住者の健康増進と交流の機会の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：歩行者通行量：5,915人/日 最新値：歩行者通行量：3,142人/日（目標未達成） 調査地点：りんご並木、知久町1丁目、銀座3丁目、伝馬町1丁目 進捗状況：目標値を約47%下回る結果となった。銀座堀端ビルでは健康福祉サービスを提供しており、近隣住民だけでなく市街地外からの利用者もいるが、コロナ禍の影響を受け健康福祉サービスの機能低下、利用者減少となり回復に至っていない。
事業の今後について	周辺施設のトップヒルズ本町では令和4年度に商業施設のなみきマーケットが開店、橋南公民館も移転している。また、同建物2階

	にはゆいきっず広場もあることから、幅広い世代の交流の場としての施設利用者増加が今後も期待されるため、積極的な事業 PR 等により賑わいを創出していきたい。
--	---

## ②子育て世代包括支援事業

(飯田市)

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	中心市街地において、子育て世代にとって住みやすい環境づくりが求められており、子育て支援や親子の居場所づくりを行うことにより、来街者の利便性向上や居住人口の増大を図る
国の支援措置名及び支援期間	子ども家庭応援センター事業 令和2年度～令和7年度
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：歩行者通行量：5,915人/日 最新値：歩行者通行量：3,142/日（目標未達成） 調査地点：りんご並木、知久町1丁目、銀座3丁目、伝馬町1丁目 進捗状況：目標値を約47%下回る結果となった。コロナ禍の影響により周辺施設等の利用者が回復に至っていない。一方でトップヒルズ本町で子育て支援事業として実施しているゆいきっず広場等を含む市民サロンの利用者は前年度比で約46%増加していることから事業としての需要は高まっている。
事業の今後について	令和6年4月から市の子育て支援策をさらに充実させるため、新しくこども課をトップヒルズ本町2階に設置し子育て環境の強化に向け体制を整えている。引き続き相談窓口やゆいきっず広場の運営等により子育て支援や親子の居場所づくりを推進していく。

## ③多世代交流拠点事業

(まちづくり委員会、NPO 法人おしゃべりサラダ、飯田市)

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	子育て世代・高齢者等の支援とイベント等の情報交流の場と機会づくりを通じて、誰もが気軽に集える第3の居場所づくりを行い、まちなかの賑わい創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地域子育て支援拠点事業 令和2年7月～令和8年3月 中心市街地活性化ソフト事業 令和2年7月～令和8年3月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：歩行者通行量：5,915人/日 最新値：歩行者通行量：3,142人/日（目標未達成） 調査地点：りんご並木、知久町1丁目、銀座3丁目、伝馬町1丁目 進捗状況：目標値を約47%下回る結果となった。コロナ禍の影響により周辺施設等の利用者が回復に至っていない。一方でトップヒ



	ルズ本町で子育て支援事業として実施しているゆいぎっず広場等を含む市民サロンの利用者は前年度比で約 46%増加していることから事業としての需要は高まっている。
事業の今後について	トップヒルズ本町では令和4年度に商業施設のなみきマーケットが開店、橋南公民館も移転している。また、同建物2階にはゆいぎっず広場もあることから、幅広い世代の交流の場としての施設利用者増加が今後も期待されるため、積極的な事業PR等により賑わいを創出していきたい。

#### (4) 新規出店数増加による効果

##### ①地区空き家バンク連携事業

(まちづくり委員会、飯田市)

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	中心市街地の3地区が協働で空き家バンクを開設し、空き家・空き店舗情報を収集する体制づくりと情報発信を行うことにより、まちなかの居住環境整備を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和2年7月～令和8年3月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：歩行者通行量：4,604人/日 最新値：歩行者通行量：2,242人/日（目標未達成） 調査地点：知久町1丁目、銀座3丁目、伝馬町1丁目 進捗状況：目標値を約51%下回る結果となった。調査地点の知久町1丁目、銀座3丁目の周辺施設の橋南公民館、飯田市立動物園、ゆいぎっず広場等はコロナ前以上に利用者が増加していることから、人の流れは回復しつつある。
事業の今後について	各地区の空き家リストを引き続き作成し、利活用可能な空き家を精査することで、今後の取り組みにつなげていきたい。また、橋北地区で作成した空き家予防のパンフレットを地域内に周知することで、空き家の減少にもつなげていきたい。

##### ②空き家・空き店舗活用事業

((まちづくり委員会、(株)飯田まちづくりカンパニー、飯田商工会議所、(一社)空き家人情プロジェクト、明治大学、飯田市))

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	地域、市民団体、各種団体が連携して空き家・空き店舗活用の実行組織・仕組みづくりを構築し、既存施設や空き家・空き店舗の調査、マッチング、開業支援を行うことで、歩いて買物・飲食や滞在ができるまちづくりに取り組むことにより、商業の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和2年7月～令和8年3月

事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>目標値：歩行者通行量：4,604 人/日          最新値：歩行者通行量：2,242 人/日（目標未達成）          調査地点：知久町 1 丁目、銀座 3 丁目、伝馬町 1 丁目          進捗状況：目標値を約 51% 下回る結果となった。調査地点の知久町 1 丁目、銀座 3 丁目の周辺施設の橋南公民館、飯田市立動物園、ゆいきっず広場等はコロナ前以上に利用者が増加していることから、人の流れは回復しつつある。事業としてはまちづくりカンパニーで事業者とテナントをマッチングし新たに 4 店舗の出店につなげている。</p>
事業の今後について	<p>各地区の空き家リストを引き続き作成し、利活用可能な空き家を精査することで、今後の取り組みにつなげていきたい。また、市で取り組んでいる空き家バンク制度の利用促進により、空き家の減少につなげていきたい。</p>

### ③ まちなか起業推進事業

（飯田商工会議所、（一社）South-Heart、飯田市中心市街地活性化協会、飯田市）

事業実施期間	令和 2 年度～令和 7 年度 【実施中】
事業概要	<p>まちなかの経済的な衰退傾向に歯止めをかけるため、空き家・空き店舗活用や商業集積再生の担い手となる起業希望者育成及び開業支援を実施することにより、経済活力の向上を図る</p>
国の支援措置名及び支援期間	<p>中心市街地活性化ソフト事業          令和 2 年 7 月～令和 7 年 3 月</p>
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>目標値：歩行者通行量：4,604 人/日          最新値：歩行者通行量：2,242 人/日（目標未達成）          調査地点：知久町 1 丁目、銀座 3 丁目、伝馬町 1 丁目          進捗状況：目標値を約 51% 下回る結果となった。調査地点の知久町 1 丁目、銀座 3 丁目の周辺施設の橋南公民館、飯田市立動物園、ゆいきっず広場等はコロナ前以上に利用者が増加していることから、人の流れは回復しつつある。事業としては、起業支援として市の空き店舗活用推進事業補助金を活用し新たに 5 店舗の出店につなげている。</p>
事業の今後について	<p>空き家・空き店舗を活用した市の起業支援制度活用を推進するため、相談窓口となる飯田商工会議所との連携を更に深めるとともに、起業後間もない事業者の出店支援となる機会を提供し空き店舗等の活用につなげていく。</p>

## （5）文化・交流施設利用者数増加による効果

### ① 春草通り活用事業

（まちづくり委員会、飯田市）

事業実施期間	令和 2 年度～令和 7 年度 【実施中】
--------	-----------------------

事業概要	<p>仲ノ町から旧飯田測候所を「春草通り」と命名し、地域の歴史的資源を活かしたまちづくりの活性化を図る。</p> <p>旧飯田測候所に付属する測風塔を、環境教育とコミュニティ活動の拠点として地域で活用できる展望台施設等へと改修することで付加価値を与え、ソフト事業との相乗的効果を図ることにより、まちなかの賑わいを創出する。</p>
国の支援措置名及び支援期間	<p>社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（飯田市中心市街地地区））</p> <p>令和3年度</p>
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>目標値：歩行者通行量：5,956 人/日</p> <p>最新値：歩行者通行量：3,142 人/日</p> <p>調査地点：りんご並木、知久町 1 丁目、銀座 3 丁目、伝馬町 1 丁目</p> <p>進捗状況：目標値を約 47% 下回る結果となった。コロナ禍の影響から周辺施設等の利用者が回復に至っていない。一方で、文化交流施設利用者数は基準値対比 9% 増加、目標値対比も約 4 パーセント増加しているため、コロナからは回復傾向にある。事業としては地区の取り組みとして春草通りでのウォーキング事業や旧飯田測候所の利活用検討会議やイルミネーション事業に取り組んでいる。</p>
事業の今後について	<p>菱田春草生誕 150 周年の取り組みとして、作品をテーマにした学習会や歴史を振り返る展示等を計画している。また、旧飯田測候所の有効的な利活用や運営方法を引き続き検討し、より地域との連携を深めた事業展開を行い目標の達成を目指す。</p>

## ②丘のまち情報交流サロン事業

（飯田市）

事業実施期間	令和 2 年度～令和 7 年度 【実施中】
事業概要	<p>中心市街地の情報提供やコミュニティ活動の拠点として、本市の施設を活用した市民交流サロンの検討と整備を実施し、官民連携の事業推進と市民活動の支援を行うことにより、さらなる丘のまちの魅力向上を図る</p>
国の支援措置名及び支援期間	<p>中心市街地活性化ソフト事業</p> <p>令和 2 年 7 月～令和 8 年 3 月</p>
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>目標値：歩行者通行量：5,956 人/日</p> <p>最新値：歩行者通行量：3,142 人/日</p> <p>調査地点：りんご並木、知久町 1 丁目、銀座 3 丁目、伝馬町 1 丁目</p> <p>進捗状況：目標値を約 47% 下回る結果となった。コロナ禍の影響から周辺施設等の利用者が回復に至っていない。一方で、文化交流施設利用者数は基準値対比 9% 増加、目標値対比も約 4 パーセント</p>

	増加しているため、コロナからは回復傾向にある。
事業の今後について	丘のまち情報交流サロンは当初の予定を変更し、情報提供機能を観光案内所及びまちなかインフォメーションセンターへ、交流機能を結いキッズ広場及びムトスぷらざへ機能分散し設置している。また、令和4年5月にトップヒルズ本町1階に商業施設のなみきマーケットが開店し、さらに、店内には交流スペースも設置されていることから、周辺施設含めてまちなか居住者や来訪者に対する新たな交流の場として利用いただけるよう、さらに連携を深め目標達成を目指す。

### ③ライフスタイルの低炭素化事業

(まちづくり委員会、おひさま進歩エネルギー(株)、飯田市)

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	中心市街地にあるエコハウス、旧飯田測候所を拠点に、エコライフに関するイベントや環境教育等の省エネルギーを目指したライフスタイルの普及・啓発活動を実施することにより、快適なまちなか居住の推進を図る
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和2年7月～令和8年3月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：歩行者通行量：5,956人/日 最新値：歩行者通行量：3,142人/日(目標未達成) 調査地点：りんご並木、知久町1丁目、銀座3丁目、伝馬町1丁目 進捗状況：目標値を約47%下回る結果となった。コロナ禍の影響から周辺施設等の利用者が回復に至っていない。一方で、文化交流施設利用者数は基準値対比9%増加、目標値対比も約4パーセント増加しているため、コロナからは回復傾向にある。事業としては対象施設であるエコハウスの利用者が、前年度対比で約71%増加している。理由としては管外からの視察等が戻りつつあることに加えて、各種事業の際に施設を活用しイベントや環境教育等の普及・啓発活動に取り組んだ成果と考えられる。
事業の今後について	エコハウス単独事業での集客は難しいことから、沿線で取り組んでいる事業と連携して取り組むことで、事業の推進及び施設利用者の増加に引き続き取り組む。

### ④丘のまち回遊促進事業

(まちづくり委員会、NPO いいだ応援ネットイデア、飯田まちなか回遊促進研究会環境文化教育機構(株)、飯田市)

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	来街者の核施設となる飯田市立動物園を軸に、りんご並木、桜並木、

	春草通りに点在する個店や飯田市美術博物館、川本喜八郎人形美術館、飯田市立中央図書館等の施設が連携し、まちなか回遊を生み出すスタンプラリー事業の展開により、中心市街と全体の商業活性への効果波及を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和2年7月～令和8年3月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：歩行者通行量：5,956人/日 最新値：歩行者通行量：3,142人/日（目標未達成） 調査地点：りんご並木、知久町1丁目、銀座3丁目、伝馬町1丁目 進捗状況：目標値を約47%下回る結果となった。コロナ禍の影響から周辺施設等の利用者が回復に至っていない。一方で、文化交流施設利用者数は基準値対比9%増加、目標値対比も約4パーセント増加しているため、コロナからは回復傾向にある。事業として春休みに取り組んでいる「丘の上さんぽラリー」は、加盟店の追加や事業内容の見直し、参加店舗で扱う商品の景品化等により、過去最高の応募数を得ることができた。
事業の今後について	中心市街地の店舗を知ってもらうことを目的に開始した丘の上さんぽラリーは、事業も定着化し参加者も増加してきているため、今後も店舗を訪問し楽しんで回遊できる要素を充実させることで事業の強化を図る。

#### ⑤丘のまちミュージアム活用事業

（まちづくり委員会、飯田市）

事業実施期間	平成26年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	飯田市美術博物館、まちづくり委員会、地域商店街等が連携し、飯田市美術博物館、川本喜八郎人形美術館、飯田市立中央図書館、歴史文化遺産、文化芸能、町並み、景観のすべてを地域ミュージアムと捉え、それぞれが関連するテーマを題材とする特別展示等を企画し、知的交流拠点となるまちなかを創出し、来訪者の回遊推進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和2年7月～令和8年3月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：歩行者通行量：5,956人/日 最新値：歩行者通行量：3,142人/日（目標未達成） 調査地点：りんご並木、知久町1丁目、銀座3丁目、伝馬町1丁目 進捗状況：目標値を約47%下回る結果となった。コロナ禍の影響から周辺施設等の利用者が回復に至っていない。一方で、文化交流施設利用者数は基準値対比9%増加、目標値対比も約4パーセント

	増加しているため、コロナからは回復傾向にある。対象施設の利用者は基準値対比で飯田市立動物園が約 14%増加、中央図書館は約 28%の増加となり目標に向け寄与している。
事業の今後について	各施設では通常運営に回復しコロナ前を上回る利用者数につながっていることから、テーマを絞った特別展や施設同士を結び取り組みを強化することで目標達成を目指す。

⑥ソサイエティ 5.0 社会を見据えたデジタル技術活用まちづくり事業  
(丘メン実行委員会、飯田市)

事業実施期間	令和 2 年度～令和 7 年度 【実施中】
事業概要	次世代デジタル技術を活用し、中心市街地の名所を情報発信するとともに、回遊につながる仕組みをつくることで、関係人口拡大や地域のデジタル産業の振興を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和 2 年 7 月～令和 8 年 3 月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：歩行者通行量：5,956 人/日 最新値：歩行者通行量：3,142 人/日（目標未達成） 調査地点：りんご並木、知久町 1 丁目、銀座 3 丁目、伝馬町 1 丁目 進捗状況：目標値を約 47%下回る結果となった。コロナ禍の影響から周辺施設等の利用者が回復に至っていない。一方で、文化交流施設利用者数は基準値対比 9%増加、目標値対比も約 4パーセント増加しているため、コロナからは回復傾向にある。事業としては企業協力の基、中心市街地の魅力をスマホで体験するコンテンツや、高校生と共同で中心市街地の周遊に活かせるコンテンツの作成に取り組んだ。
事業の今後について	次世代デジタル技術を楽しんでもらうことができるコンテンツ作成に取り組むことに加えて、課題解決に向けた活用方法にも取り組むことで目標達成を目指す。

●目標達成の見通し及び今後の対策

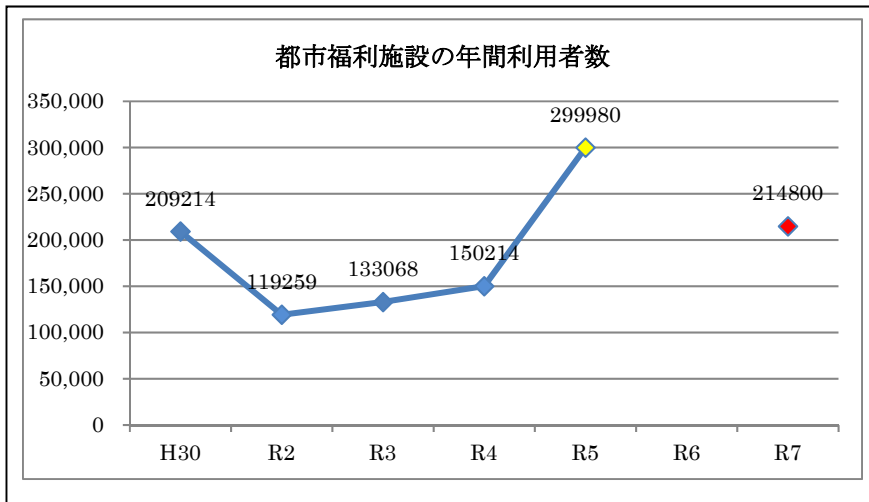
「歩行者・自転車通行量」は、主要 11 事業のうち、目標達成している事業は 1 事業にとどまっている。また、調査した 6ヶ所の内、5ヶ所が基準値を下回っている。一方で、前年度対比では約 26%増加していることに加えて、基準値対比で都市福利施設利用者数は約 48%増加、文化交流施設利用者数は約 9%増加していることから、中心市街地へ訪れる人は増加している。今後は特定の施設目的で訪れている利用者を、街中へ誘導する仕組みづくりに取り組んでいく必要がある。

◆丘のまちの居場所・交流空間づくり

目標指標：都市福利施設利用者数（年間）

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 109～P. 111 参照

●調査結果と分析：都市福利施設利用者数（年間）



年	利用者数
H30	209,214 人/年 (基準値)
R2	119,259 人/年
R3	141,008 人/年
R4	150,214 人/年
R5	299,980 人/年
R6	
R7	214,800 人/年 (目標値)

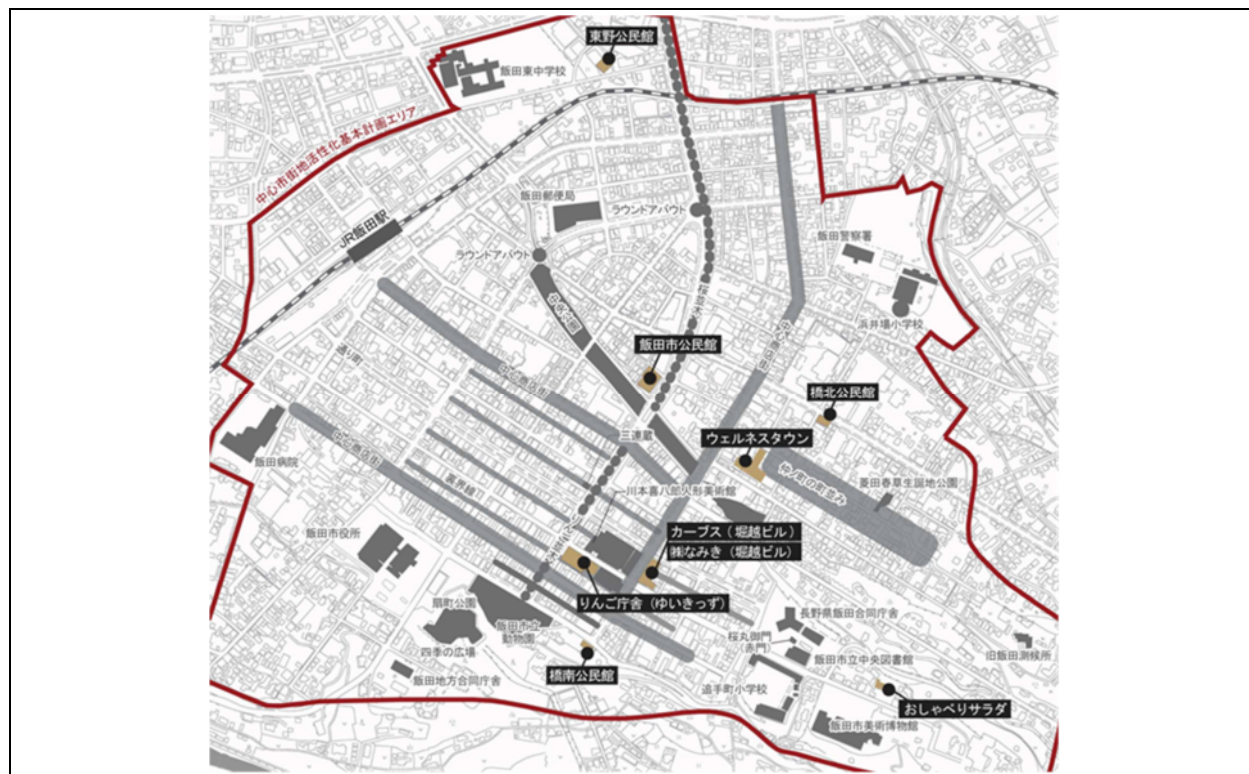
※調査方法：各施設担当者より聞き取り

※調査月：令和6年4月（令和5年度末集計）

※調査主体：飯田市

※調査対象：カーブス、(株)なみき、ウェルネスタウン、ゆいきっず、飯田市公民館、橋北公民館、橋南公民館、東野公民館、おしゃべりサラダ

※「おしゃべりサラダ」は、平成30年度の時点で、計画エリア内で事業を実施していないため、基準値は設けていない。



(単位：人/年)							
	平成30年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)	令和7年度 (6年目)
カーブス	55,261	41,014	47,828	47,386	47,018		
(株)なみき ※令和4年度より掘端デイ	4,843	3,272	2,255	683	1,590		
ウエルネスカワ	1,900	2,450	880	628	576		
ゆいきっず	9,862	13,532	11,606	15,244	22,196		
飯田市公民館	73,687	29,654	46,598	44,236	164,944		
橋北公民館	21,094	9,842	11,164	13,210	14,854		
橋南公民館	8,825	4,703	6,307	12,581	18,873		
東野公民館	26,599	14,792	14,410	16,246	29,929		
合計	202,071	119,259	141,008	150,214	299,980		

### 〈分析内容〉

コロナ前の基準値対比で約43%増加、目標値対比は約40%増加している。また、前年度対比で約100%の大幅な増加が見られた。これは、コロナ禍の影響により公共施設は前年度、休館及び利用制限の期間を設けていたため大きな増加の要因になったと考えられる。増加が顕著な施設は、令和4年5月に駅前の大型施設を改修し整備されたムトスぷらざで、前年度対比で約273%増加した。これは整備前から需要の高かった「幅広い世代が集いやすい交流拠点の整備」として、大規模なフリースペースを設置したことが大きな要因と考えられる。他にも各公民館施設や子育て支援施設など既に目標値を上回る利用者となっていることから、各施設の取り組みの効果が表れていると考えられる。一方で、コロナにより運営方法を縮小し、今後も縮小したままで運営する民間施設も出てきているため、各施設の取り組みを更に強化していく必要がある。

## ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

### (1) 健康福祉支援による効果

#### ①健康福祉拠点活用事業

((社医) 栗山会、カーブス、(株)なみき)

事業実施期間	平成26年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	高齢化が進む中心市街地において、市民の健康寿命延伸のため、銀座掘端ビル等を拠点として、地域に居住する高齢者の生活支援施策、地域住民の健康支援事業、地域住民の健康・福祉データバンク機能、子育て支援のため整備した拠点を活用することで、まちなか居住者の健康増進と交流の機会の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新	目標値：施設利用者数：65,324人/年



値及び進捗状況	最新値：施設利用者数：49,184 人/年（目標未達成） 調査地点：カーブス、(株)なみき、ウェルネスタウン 進捗状況：目標値を約 25%下回る結果となった。(株)なみきのデイサービス事業を引き継ぎ、令和4年度に堀端デイが規模を縮小し事業を開始したが令和6年2月に移転により閉鎖した。また、ウェルネスタウンはコロナにより利用者制限を設けた運営方法に見直し、現在も縮小した運営を継続している。
事業の今後について	ウェルネスタウン内にあるフィットネスクラブ丘の上はコロナにより設けた利用制限を当面解除する予定がなく、デイサービス事業も閉鎖しているため、新たな福祉機能の事業を誘致する等して、目標達成を目指していく。

## (2) 子育て支援による効果

### ①子育て世代包括支援事業

(飯田市)

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	中心市街地において、子育て世代にとって住みやすい環境づくりが求められており、子育て支援や親子の居場所づくりを行うことにより、来街者の利便性向上や居住人口の増大を図る
国の支援措置名及び支援期間	子ども家庭応援センター事業 令和2年度～令和7年度
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：施設利用者数：10,942 人/年 最新値：施設利用者数：22,196 人/年（目標達成） 調査地点：りんご庁舎 進捗状況：目標値を約 103%上回る結果となった。コロナから人の流れが回復してきたことに加えて、子育て相談等の需要が高まっていると考えられる。また、飯田市立動物園等周辺施設の来街者の休憩場所等として活用されていることもあり、利用者数が大幅に増加したものと考えられる。
事業の今後について	令和6年4月から市の子育て支援策をさらに充実させるため、新しくこども課をトップヒルズ本町2階に設置し子育て環境の強化に向け体制を整えている。引き続き相談窓口やゆいぎっず広場の運営等により子育て支援や親子の居場所づくりを推進していく。

## (3) 多世代交流による効果

### ①多世代交流拠点事業

(まちづくり委員会、NPO 法人おしゃべりサラダ、飯田市)

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	子育て世代・高齢者等の支援とイベント等の情報交流の場と機会づくりを通じて、誰もが気軽に集える第3の居場所づくりを行い、ま

	ちなかの賑わい創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和2年7月～令和8年3月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：施設利用者数：131,405人/年 最新値：施設利用者数：228,600人/年（目標達成） 調査地点：飯田市公民館、橋北公民館、橋南公民館、東野公民館、NPO 法人おしゃべりサラダ 進捗状況：目標値を約74%上回る結果となった。増加の大きな理由は、令和4年5月に駅前の大型施設を改修し整備されたムトスぷらざで、前年度対比で約273%増加した。これは整備前から需要の高かった「幅広い世代が集いやすい交流拠点の整備」として、大規模なフリースペースを設置したことが大きな要因と考えられる。橋南公民館、東野公民館も目標値を上回り順調に運営されている。
事業の今後について	事業は順調に進んでいるため、公民館での各講座やフリースペースの有効活用により第3の居場所づくりをさらに推進していく。

### ●目標達成の見通し及び今後の対策

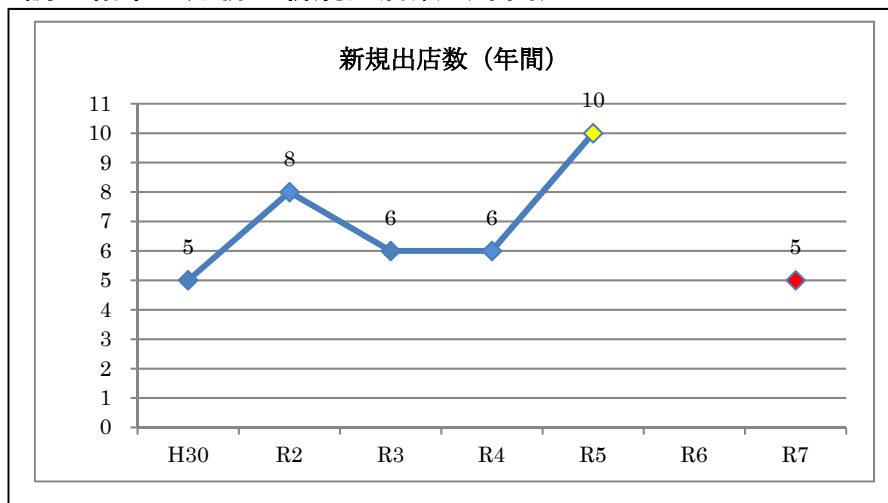
「都市福利施設利用者数」は、主要3事業の内2事業が目標を達成した。8施設の内6施設が昨年度を上回り、4施設が基準値を上回ったことから、都市福利施設の利用は回復傾向にあるといえる。民間施設が事業閉鎖及び縮小となっているため、新たな事業者を誘致する等施設を有効に活用する必要がある。各公民館については、利用者がコロナから大幅に回復してきているため、第3の居場所づくりとして施設の周知・運営をさらに推進していく。

### ◆丘のまちの快適な暮らし創造

目標指標：新規出店数（年間）

※目標設定の考え方認定基本計画 P.109～P.111 参照

●調査結果と分析：新規出店数（年間） ※基準値は平成20年～平成30年の平均



年	新規出店数
H30	5店舗/年（基準値）
R2	8店舗/年
R3	6店舗/年
R4	6店舗/年
R5	10店舗/年
R6	
R7	計画期間中の平均 5店舗/年 （目標値）

※調査方法：各事業担当者より聞き取り

※調査月：令和6年4月（令和5年度末集計）

※調査主体：飯田市

※調査対象：飯田市空家環境整備補助金、飯田市空家改修補助金、飯田市子育て世帯引越費用補助金、飯田市空き店舗活用推進事業補助金、まちづくりカンパニー

※上記のうち中心市街地活性化基本計画のエリアのみ対象

（単位：店舗/年）

	平成30年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)	令和7年度 (6年目)
新規出店数	3	9	6	6	10		

### 〈分析内容〉

今年度の「新規出店数」は10件（店舗9件、民家1件）であった。基準値対比で7店舗増加し目標値を5店舗上回っている。新規出店数を把握することは難しいため、調査対象を市支援策の各種補助金実績及びまちづくりカンパニーからの情報を合算し算出している。コロナが収束し今後の経営に踏み出す動きが増えてきたことに加えて、今年度より新たに拡充した施策も要因の一つと考えられる。これまでは、空き店舗を活用して新規出店する際の建物改修費を補助していたが、新たに賃借料補助を拡充したことで、窓口での相談件数も増加し3件の制度利用につながっている。一方で、物価高や光熱水費等の経常経費の増加等による新規出店へのマイナス材料が今後も見込まれる。

## ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

### （1）新規出店数増加による効果

#### ①地区空き家バンク連携事業

（まちづくり委員会、飯田市）

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	中心市街地の3地区が協働で空き家バンクを開設し、空き家・空き店舗情報を収集する体制づくりと情報発信を行うことにより、まちなかの居住環境整備を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和2年7月～令和8年3月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：新規出店数：3店舗/年 最新値：新規出店数：5店舗/年（目標達成）※まちなか起業推進事業含む 調査地点：中心市街地活性化基本計画エリア 進捗状況：目標値を上回る成果を上げることができた。コロナが収束し今後の経営に踏み出す動きが増えてきたことに加えて、今年度より新たに拡充した施策も要因の一つと考えられる。
事業の今後について	「地区空き家バンク連携事業」としては、全市対象の空き家バンク制度が開設されているため有効的に活用し、中心市街地限定のバンク制度の必要性や情報収集・発信についてを、まちづくり委員会と

	ともに検討していく。
--	------------

## ②空き家・空き店舗活用事業

(まちづくり委員会、(株)飯田まちづくりカンパニー、飯田商工会議所、(一社)空き家 人情プロジェクト、明治大学、飯田市)

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	地域、市民団体、各種団体が連携して空き家・空き店舗活用の実行組織・仕組みづくりを構築し、既存施設や空き家・空き店舗の調査、マッチング、開業支援を行うことで、歩いて買物・飲食や滞在ができるまちづくりに取り組むことにより、商業の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和2年7月～令和8年3月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：新規出店数：3店舗/年 最新値：新規出店数：5店舗/年（目標達成） 調査地点：中心市街地活性化基本計画エリア 進捗状況：目標値を上回る成果を上げることができた。コロナが収束し今後の経営に踏み出す後押しとして各事業の支援策が活用された結果と考えられる。
事業の今後について	制度周知や店舗誘致を更に強化することで事業推進を図るとともに、空き店舗等の新しい活用方法を引き続き検討していく。

## (2) 来街者の回遊性増加による効果

### ①まちなか起業推進事業

(飯田商工会議所、(一社) South-Heart、飯田市中心市街地活性化協会、飯田市)

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	まちなかの経済的な衰退傾向に歯止めをかけるため、空き家・空き店舗活用や商業集積再生の担い手となる起業希望者育成及び開業支援を実施することにより、経済活力の向上を図る
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和2年7月～令和7年3月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：新規出店数：2店舗/年 最新値：新規出店数：5店舗/年（目標達成） 調査地点：中心市街地活性化基本計画エリア 進捗状況：目標値を上回る成果を上げることができた。コロナが収束し今後の経営に踏み出す動きが増えてきたことに加えて、今年度より新たに拡充した施策も要因の一つと考えられる。
事業の今後について	事業者同士のつながりや新たな事業展開を考える機会となる場を設けるとともに、市の起業支援の制度活用をさらに推進するため、相談窓口となる飯田商工会議所との連携を深めていく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

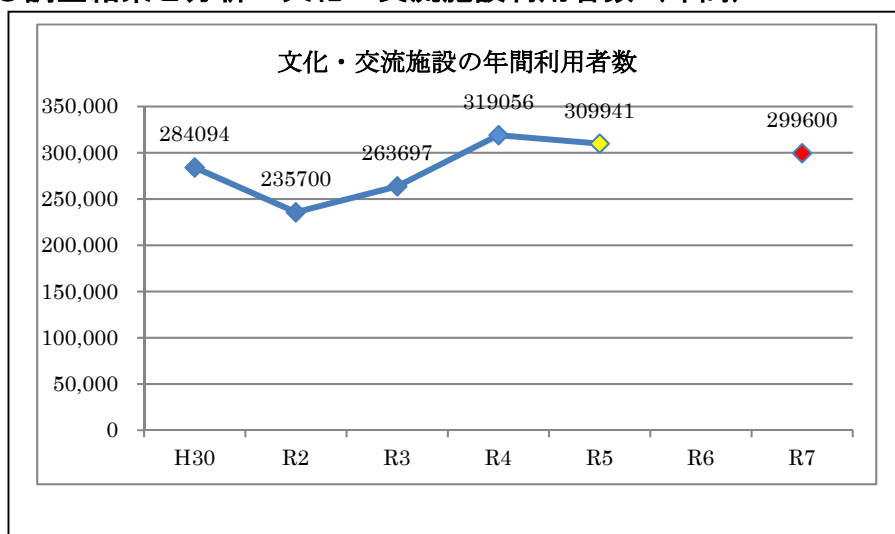
「新規出店数」は、目標値を5店舗上回っている。コロナが収束し今後の経営に踏み出す動きが増えてきたことに加えて、今年度より起業への支援策を強化したことが増加につながっていると考えられる。今後も想定される物価高や光熱水費等の経常経費の増加等による新規出店へのマイナス材料がどのように影響してくるか、見極めたうえで必要な対策を講じていく。

◆丘のまちの新たな価値創造

目標指標：文化・交流施設利用者数（年間）

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 109～P. 111 参照

●調査結果と分析：文化・交流施設利用者数（年間）



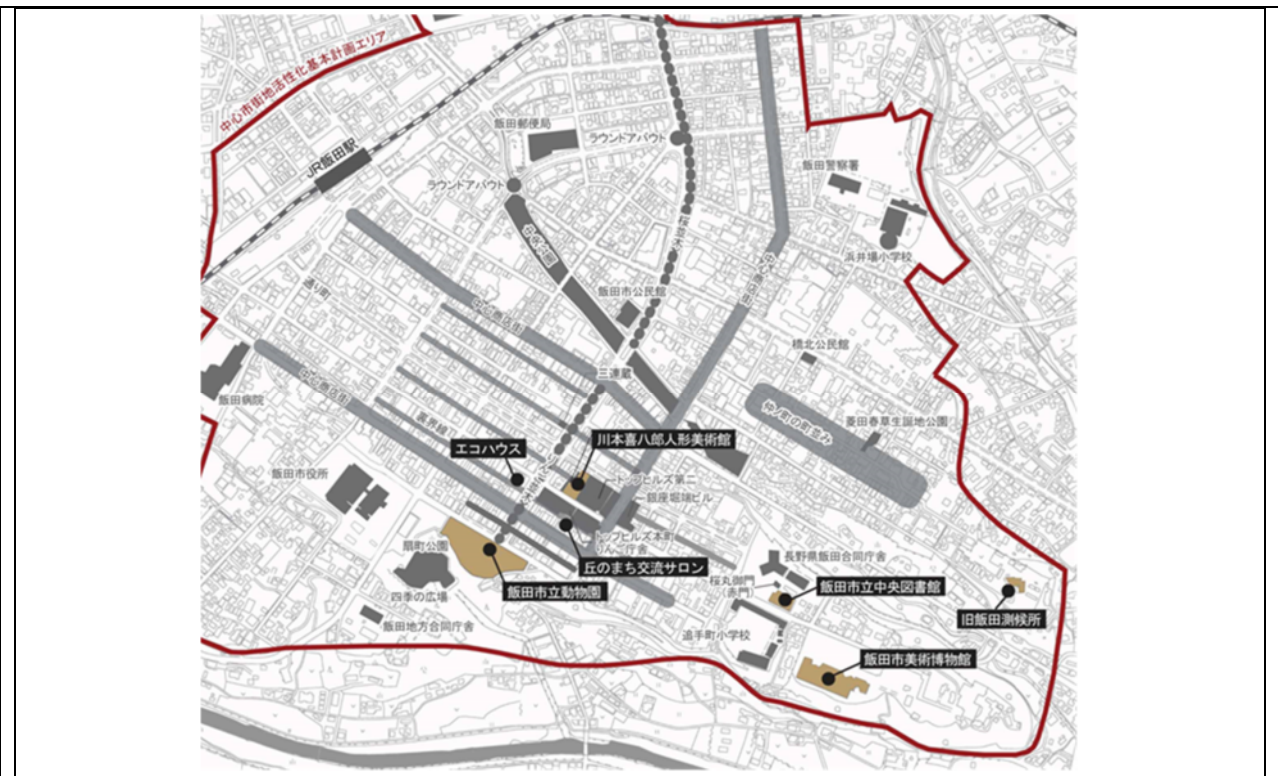
年	
H30	284,094 人/年 (基準値)
R2	235,700 人/年
R3	263,697 人/年
R4	319,056 人/年
R5	309,941 人/年
R6	
R7	299,600 人/年 (目標値)

※調査方法：各施設担当者より聞き取り

※調査月：令和6年4月（令和5年度末集計）

※調査主体：飯田市

※調査対象：旧飯田測候所、丘のまち交流サロン、エコハウス、飯田市美術博物館、川本喜八郎人形美術館、飯田市立中央図書館、飯田市立動物園



(単位：人/年)

	平成 30 年 度 (計画前年度)	令和 2 年 度 (1 年目)	令和 3 年 度 (2 年目)	令和 4 年 度 (3 年目)	令和 5 年 度 (4 年目)	令和 6 年 度 (5 年目)	令和 7 年 度 (6 年目)
旧飯田測候所	1,312	1,254	1,957	1,192	1,018		
丘のまち情報 交流サロン							
エコハウス	5,234	1,707	2,313	2,860	4,877		
飯田市 美術博物館	42,832	27,675	36,790	37,882	29,438		
川本喜八郎 人形美術館	12,256	4,482	4,514	7,431	7,607		
飯田市立 中央図書館	96,158	91,888	96,722	121,262	122,776		
飯田市立 動物園	126,302	108,694	121,401	148,429	144,225		

〈分析内容〉

コロナ前の基準値対比で約 9%増加、目標値対比は約 3%増加している。一方で飯田市美術博物館は前年度対比で約 22%減少となっている。これは施設改修のため下半期が休館となっていたことが要因であるが、運営日数での施設利用者数は大幅に増加しているこ

とから、改修後の取り組みに期待したい。川本喜八郎人形美術館は基準値対比で約 38% 減少している。これは、主な利用者である団体観光旅行者がコロナ前までの回復に至っていないことが要因と考えられる。

## ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

### (1) 東西軸強化による回遊性増加に伴う効果

#### ①春草通り活用事業

(まちづくり委員会、飯田市)

事業実施期間	平成 26 年度～令和 7 年度 【実施中】
事業概要	仲ノ町から旧飯田測候所を「春草通り」と命名し、地域の歴史的資源を活かしたまちづくりの活性化を図る。 旧飯田測候所に付属する測風塔を、環境教育とコミュニティ活動の拠点として地域で活用できる展望台施設等へと改修することで付加価値を与え、ソフト事業との相乗的效果を図ることにより、まちなかの賑わいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（飯田市中心市街地地区）） 令和 3 年度
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：施設利用者数：1,400 人/年 最新値：施設利用者数：1,018 人/年（目標未達成） 調査地点：旧飯田測候所 進捗状況：目標値を約 27% 下回る結果となった。事業としては地区の取り組みとして春草通りでのウォーキング事業や旧飯田測候所の利活用検討会議やイルミネーション事業に取り組んでいる。
事業の今後について	菱田春草生誕 150 周年の取り組みとして、作品をテーマにした学習会や歴史を振り返る展示等を計画している。また、旧飯田測候所の有効的な利活用や運営方法を引き続き検討し、より地域との連携を深めた事業展開を行い目標の達成を目指す。

### (2) 第 3 の居場所創出による効果

#### ①丘のまち情報交流サロン事業

(飯田市)

事業実施期間	令和 2 年度～令和 7 年度 【未実施】
事業概要	中心市街地の情報提供やコミュニティ活動の拠点として、本市の施設を活用した市民交流サロンの検討と整備を実施し、官民連携の事業推進と市民活動の支援を行うことにより、さらなる丘のまちの魅力向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和 2 年 7 月～令和 8 年 3 月
事業目標値・最新	目標値：施設利用者数：1,230 人/年

値及び進捗状況	最新値：施設利用者数：－ 人/年（目標未達成） 調査地点：丘のまち情報交流サロン 進捗状況：丘のまち情報交流サロンは当初の予定を変更し、情報提供機能を観光案内所及びまちなかインフォメーションセンターへ、交流機能をムトスぷらざやゆいきっず広場へ機能分散し設置している。
事業の今後について	令和4年5月にムトスぷらざが開設され、公民館事業だけでなく2・3階のフリースペースを活用しコミュニティ活動も行われている。また、令和4年5月にトップヒルズ本町1階に商業施設のなみきマーケットが開店し、さらに、店内には交流スペースも設置されていることから、ゆいきっず広場等の周辺施設含めてまちなか居住者や来訪者に対する新たな交流の場として利用いただけるよう、さらに連携を深め事業に取り組んでいく。

## ②ライフスタイルの低炭素化事業

（まちづくり委員会、おひさま進歩エネルギー(株)、飯田市）

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	中心市街地にあるエコハウス、旧飯田測候所を拠点に、エコライフに関するイベントや環境教育等の省エネルギーを目指したライフスタイルの普及・啓発活動を実施することにより、快適なまちなか居住の推進を図る
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和2年7月～令和8年3月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：施設利用者数：5,434 人/年 最新値：施設利用者数：4,877 人/年（目標未達成） 調査地点：エコハウス 進捗状況：目標値を約 10%下回る結果となった。目標値には至らないが、施設利用者は前年度対比で約 71%増加している。理由としては管外からの視察等が戻りつつあることに加えて、各種事業の際に施設を活用しイベントや環境教育等の普及・啓発活動に取り組んだ成果と考えられる。
事業の今後について	エコハウス単独事業での集客は難しいことから、沿線で取り組んでいる事業と連携して取り組むことで、事業の推進及び施設利用者の増加に引き続き取り組む。

## （3）来街者の回遊性増加による効果

### ①丘のまち回遊促進事業

（まちづくり委員会、NPO いいだ応援ネットイデア、飯田まちなか回遊促進研究会環境文化教育機構(株)、飯田市）

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
--------	-------------------



事業概要	来街者の核施設となる飯田市立動物園を軸に、りんご並木、桜並木、春草通りに点在する個店や飯田市美術博物館、川本喜八郎人形美術館、飯田市立中央図書館等の施設が連携し、まちなか回遊を生み出すスタンプラリー事業の展開により、中心市街と全体の商業活性へ効果が波及を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和2年7月～令和8年3月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：施設利用者数：290,243人/年 最新値：施設利用者数：304,046人/年（目標達成） 調査地点：飯田市美術博物館、川本喜八郎人形美術館、飯田市立中央図書館、飯田市立動物園 進捗状況：目標値を約6%上回る結果となった。飯田市立動物園と飯田市立中央図書館の利用者数が大きく寄与している。事業として春休みに取り組んでいる「丘の上さんぽラリー」は、加盟店の追加や事業内容の見直し、参加店舗で扱う商品の景品化等により、過去最高の応募数を得ることができた。
事業の今後について	中心市街地の店舗を知ってもらうことを目的に開始した丘の上さんぽラリーは、事業も定着化し参加者も増加してきているため、今後も店舗を訪問し楽しんで回遊できる要素を充実させることで事業の強化を図る。

## ②丘のまちミュージアム活用事業

（まちづくり委員会、飯田市）

事業実施期間	平成26年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	飯田市美術博物館、まちづくり委員会、地域商店街等が連携し、飯田市美術博物館、川本喜八郎人形美術館、飯田市立中央図書館、歴史文化遺産、文化芸能、町並み、景観のすべてを地域ミュージアムと捉え、それぞれが関連するテーマを題材とする特別展示等を企画し、知的交流拠点となるまちなかを創出し、来訪者の回遊推進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和2年7月～令和8年3月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：施設利用者数：290,243人/年 最新値：施設利用者数：304,046人/年（目標達成） 調査地点：飯田市美術博物館、川本喜八郎人形美術館、飯田市立中央図書館、飯田市立動物園 進捗状況：目標値を約6%上回る結果となった。飯田市立動物園と飯田市立中央図書館の利用者数が大きく寄与している。飯田市美術博物館も改修が終了し通常運営が開始されているため、今後の施設利用者数の増加が期待できる。一方で川本喜八郎人形美術館は、主

	な客層である団体観光者がコロナから回復に至っていない。
事業の今後について	各施設では通常運営に回復しコロナ前を上回る利用者数につながっていることから、テーマを絞った特別展や施設同士を結ぶ取り組みを強化することで目標達成を目指す。

③ソサイエティ 5.0 社会を見据えたデジタル技術活用まちづくり事業  
(丘メン実行委員会、KDDI(株)、飯田市)

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	KDDI(株)の持つ次世代デジタル技術(5G)と中心市街地の歴史的・文化的資源を活用し、新たなまちの賑わいづくり事業を毎年1地区で開催することで、関係人口づくりと来街者の回遊促進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和2年7月～令和8年3月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：施設利用者数：290,243人/年 最新値：施設利用者数：315,004人/年(目標達成) 調査地点：飯田市美術館、川本喜八郎人形美術館、飯田市立中央図書館、飯田市立動物園 進捗状況：標値を約6%上回る結果となった。飯田市立動物園と飯田市立中央図書館の利用者数が大きく寄与している。事業としては企業協力の基、中心市街地の魅力をスマホで体験するコンテンツや、高校生と共同で中心市街地の周遊に活かせるコンテンツの作成に取り組んだ。
事業の今後について	次世代デジタル技術を楽しんでもらうことができるコンテンツ作成に取り組むことに加えて、課題解決に向けた活用方法にも取り組むことで目標達成を目指す。

●目標達成の見通し及び今後の対策

「文化・交流施設利用者数」は、主要6事業の内3事業が目標を上回る結果となった。人の流れは戻ってきているが、市外からの団体観光者の回復までには至っていない。市外への情報発信を強化することに加えて、市民や個人観光者等への誘客促進を更に強化するとともに、施設同士の連携した事業を行うことで相乗効果を図りたい。